

小棚又挑棚共いへり柱ありの臺目に釣五かねの二つにて九寸八分也はしばみと横木もたれと合て壹尺六步也幅九寸又は八寸八分に釣秘事口傳此棚の上は一圓に陽也中棚一尺三寸七分幅一尺也疊の上のかねを通して用陽二陰三ツ也右小棚中棚とも小柱ありの臺目に釣棚なり通棚九寸一面なり

集雲庵棚左の壁付に釣一尺貳寸三分也疊の縁を塵共に壹寸貳分合て一尺三寸五分也挑棚とかね同心持也壁付よりかねをとれば違也幅九寸三分柱ありの臺目につればかね相違する事あり能々了簡すべし二重棚は古織古田織部正好にて休千の時代にはなし雲雀棚共云かね心得がたし

〔三百箇條上之〕一棚之事むかしは同様なる棚を三重釣候夫を利休二重になし古織古田織部正より上を違えられ候なり

〔和泉草三〕葎棚

一座敷ノ棚古ハ同棚ヲ三重ニ釣シ也中興二重ニ成又一重ニ成也

一上ノ棚ヲ大ニシテ下ノ棚如常小ニシタルハ古田織部之作也

一桑ノ木地四本足水指棚桑山左近作也二本ノ柱ニシテヒレヲ付タルモ有

一上ノ棚大目間半ヲ通シ下ニ常ノ棚一重釣ル片桐石見守作也

一竹ノ水指棚袋棚ノ天井ノナキノ也前ニ同作也

〔書言字考節用集乾坤〕道幸カウカウ棚テ以貯茶器故名或云道幸業僂僂所用者則其匣而已

〔茶道望月集三十一〕一右道幸を見立初めたる事は手グツ人形をツカイ初タル者を道幸の坊といふ也箱をせおふて旅行自由する様に拵夫に色々人形を入れてツカイ歩行せし其箱より見立

初し事と也其人の名を取て今以道幸と云と也今も西の宮より出て手グツ坊まはしとて其餘